

---

# 大学・大学院生への企業の奨学金 に関するアンケート調査結果

---

2007年7月30日

日本経団連 産業第二本部

# アンケート結果 要旨

---

- 36%の企業(回答69社中25社)が、大学・大学院生を対象とした奨学金制度を設けており、その中の80%の企業(20社)が返済不要な給付型の奨学金を交付している。返済義務のある貸与型奨学金では学生の負担感が大きいという指摘がある中で、経済的な面でも学生の支援の充実を図っている。
- 貸与型奨学金では、主に「年次」、「学力」、「専攻」に関する交付条件を設け、一人あたり年間平均で、博士 約86万円、修士 約72万円、学部 約44万円を交付している。交付人数は各社でバラつきがある。
- 給付型奨学金では、主に「年次」、「専攻」、「学力」、「国籍」に関する交付条件を設け、一人あたり年間平均で、博士 約132万円、修士 約143万円、学部 約114万円を交付している。交付人数は各社でバラつきがある。
- 今後の予定として、一部の会社では奨学金制度の導入・拡充を検討しているが、「企業として特定大学とだけ付き合うのは難しい」等の理由により、奨学金制度の導入を予定していない会社も多い。
- 政府等への主な要望は、学生への経済的支援の一層の充実(給付型奨学金の充実など)と、留学生の受け入れに対する支援の強化、等である。

# アンケート実施要領

---

○調査対象：151社

産業技術委員会 委員会社、産学官連携推進部会 委員会社、  
大学院博士課程検討会 委員会社

○調査期間：2007年5月22日～6月8日

○回答社数：69社（回答率：46%）

○調査項目：

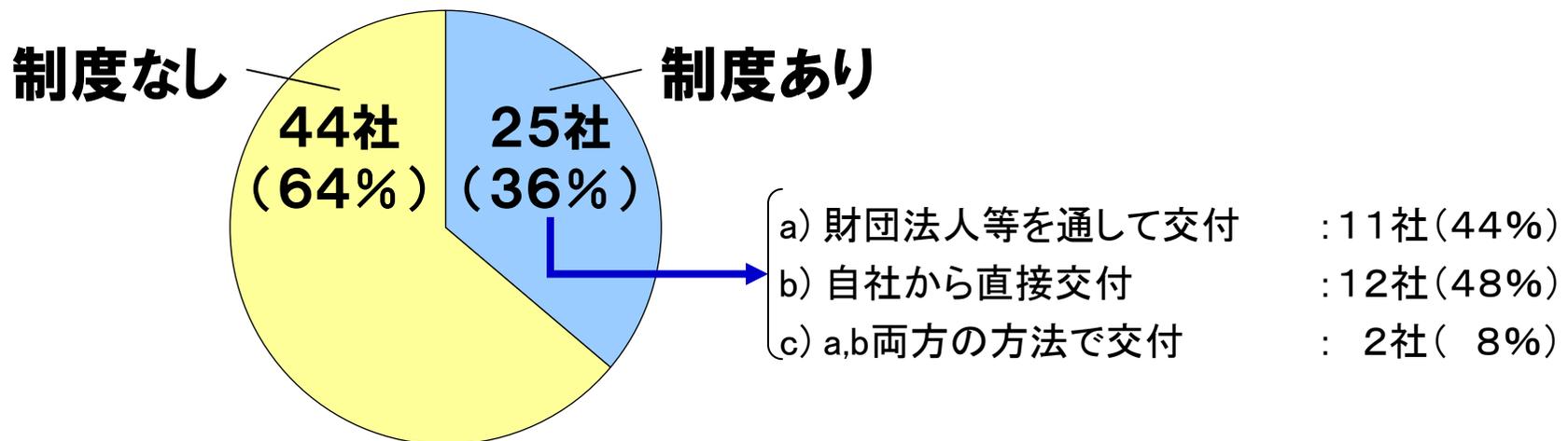
- I. 奨学金制度の有無について
- II. 奨学金の交付状況について
- III. 今後の予定など

# I 奨学金制度の有無について

## 1. 大学・大学院生に対する奨学金制度の有無と交付方法

- **36%(25社)の企業で、大学・大学院生に対する奨学金制度あり**
  - 交付方法としては、「財団法人等を通して交付」、「自社から直接交付」の企業が約半々

【奨学金制度の有無】



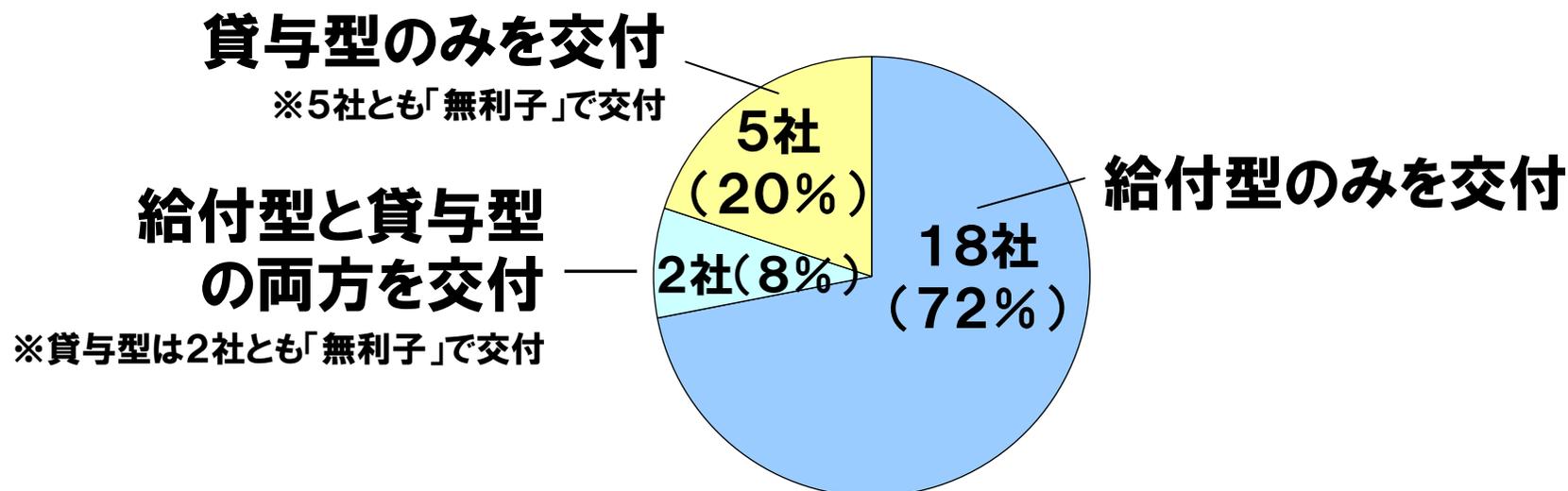
## II 奨学金の交付状況について

### 1. 大学・大学院生に対する奨学金の交付形態

■ 奨学金制度がある企業の80%(20社)が、返済不要の給付型奨学金を交付

➤ 返済義務のある貸与型奨学金を交付している企業(7社)でも、全企業にて「無利子」で交付

#### 【奨学金の交付形態】



## II 奨学金の交付状況について

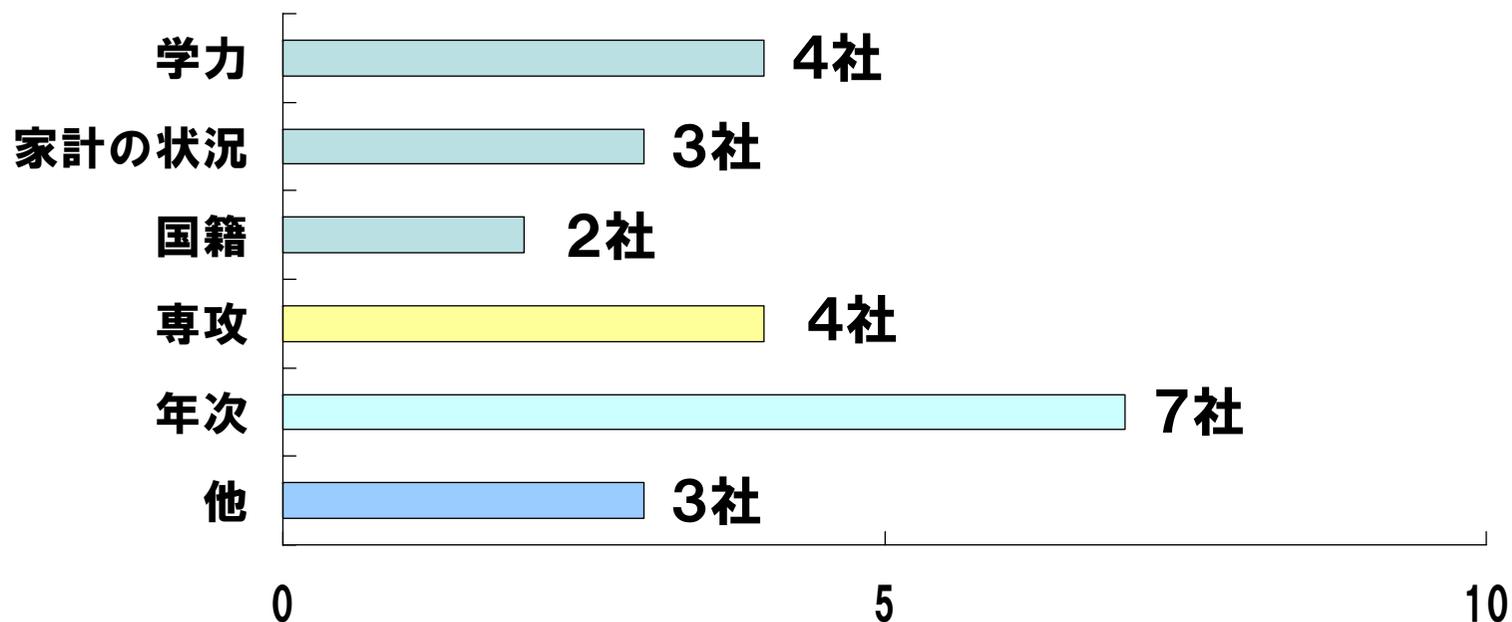
### 2. 奨学金(貸与型)の交付状況

#### ① 交付条件

- 全企業(7社)で「年次」に関する条件を設定。また、過半数の企業で「学力」(4社)と「専攻」(4社)に関する条件を設定

#### 【奨学金の交付条件】

(回答数 7社)



## II 奨学金の交付状況について

### 【ご参考】奨学金（貸与型）の交付条件例

学力	<ul style="list-style-type: none"><li>・成績優秀な者</li><li>・3段階(A,B,C)評価で原則B以上の者</li></ul>
家計の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・経済的理由により学資・研究費の支弁が困難な者</li></ul>
国籍	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本</li><li>・日本及びASEAN</li></ul>
専攻	<ul style="list-style-type: none"><li>・理系全般の学科を専攻する者</li><li>・理工学、工学、情報学、バイオ、医学・薬学を専攻する者</li><li>・理系学科のうち、化学系、物理系、生命科学系、機械系学科を専攻する者</li></ul>
年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・学部3・4年生および大学院生</li><li>・大学院進学が内定している学部4年生および大学院生</li><li>・大学院生</li></ul>
他	<ul style="list-style-type: none"><li>・入社を希望する者で会社が認めた者</li><li>・面接、適正検査</li></ul>

## II 奨学金の交付状況について

### 2. 奨学金(貸与型)の交付状況

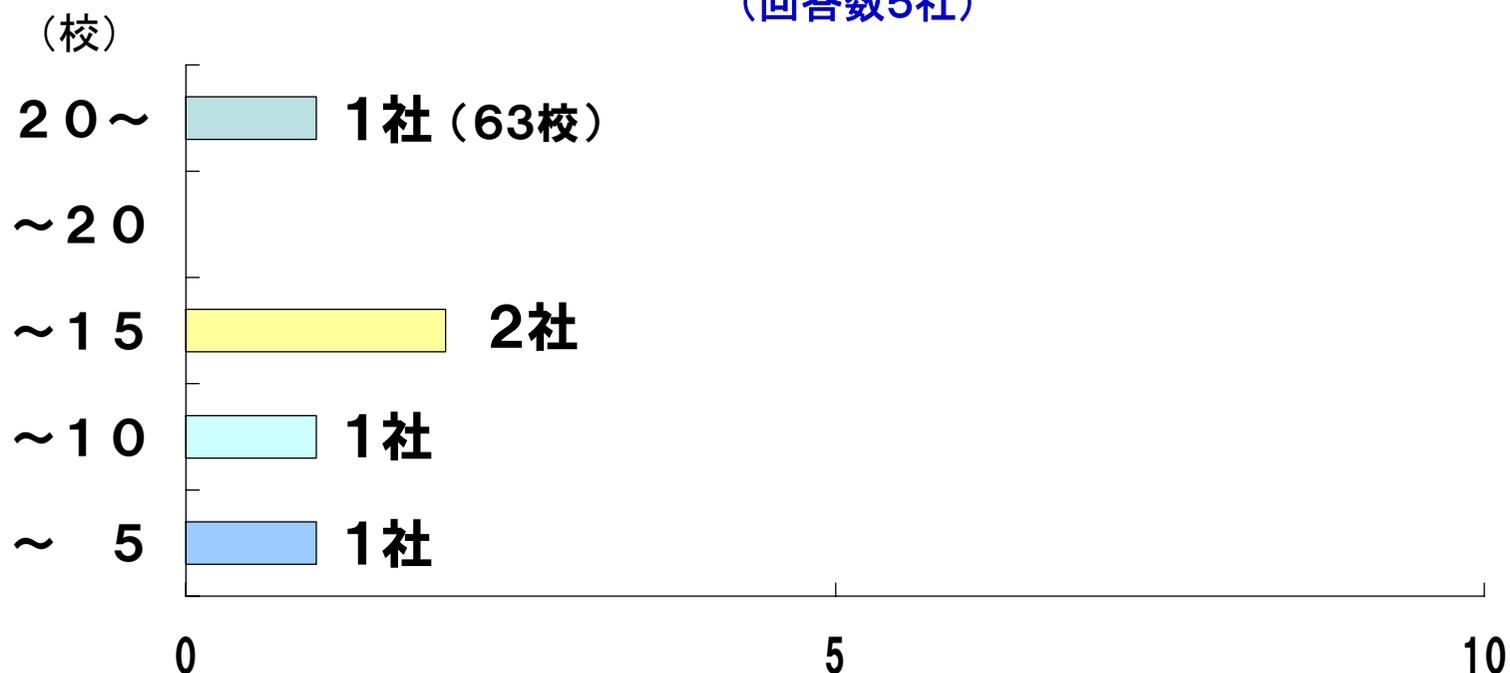
②交付している大学(院)数【直近3年間の平均概算値】

■ 交付している大学(院)数の一社あたり平均は約20校

※他に比べて極端に大きい値(63校)を除いた平均は約9校

#### 【奨学金を交付している大学(院)数】

(回答数5社)



## II 奨学金の交付状況について

### 2. 奨学金(貸与型)の交付状況

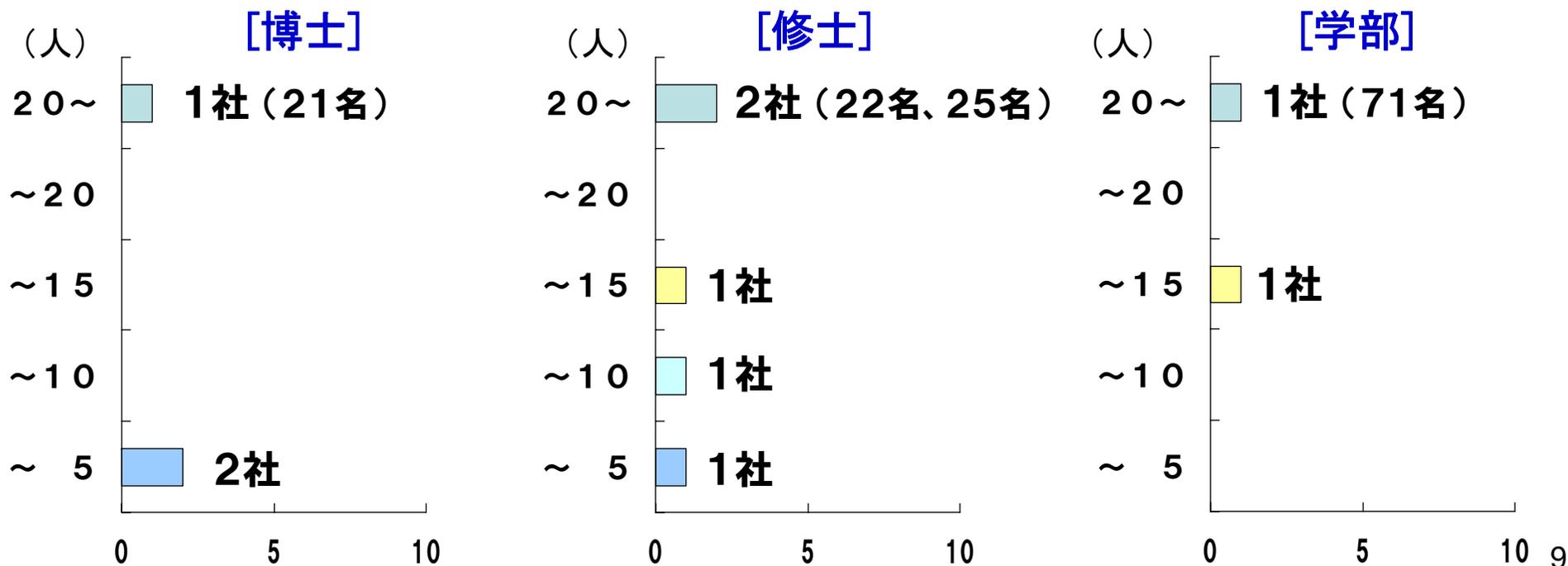
#### ③交付人数【直近3年間の平均概算値】

#### ■ 交付人数は各社でバラつきあり

※一社あたり平均は、博士 約9名、修士 約14名、学部 約42名

#### 【奨学金の交付人数】

(回答数 博士 2社、修士 5社、学部 2社)



## II 奨学金の交付状況について

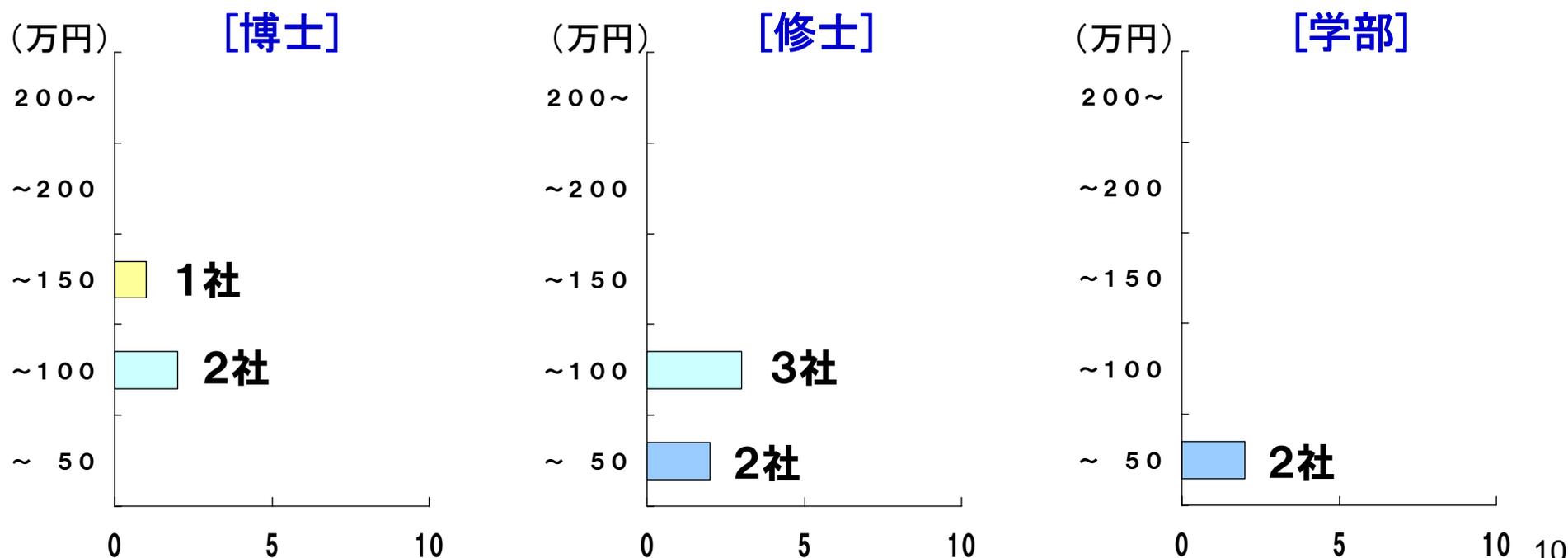
### 2. 奨学金(貸与型)の交付状況

#### ④年間交付金額【直近3年間の平均概算値】

■ 一人あたり年間交付金額の一社あたり平均は、  
博士 約86万円、修士 約72万円、学部 約44万円

#### 【奨学金の年間交付金額】

(回答数 博士 2社、修士 5社、学部 2社)



## II 奨学金の交付状況について

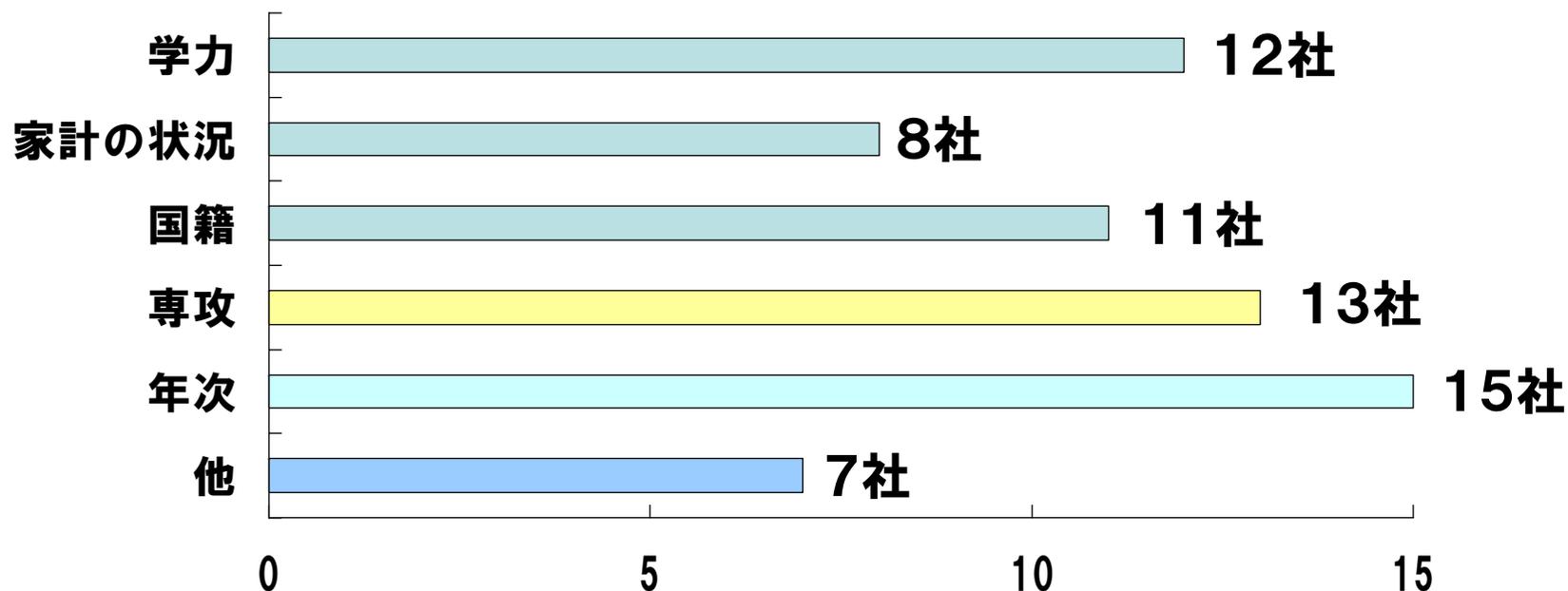
### 3. 奨学金(給付型)の交付状況

#### ① 交付条件

■ 過半数の企業で、「年次」(15社)、「専攻」(13社)、「学力」(12社)、「国籍」(11社)に関する条件を設定

#### 【奨学金の交付条件】

(回答数20社)



## II 奨学金の交付状況について

### 【ご参考】奨学金（給付型）の交付条件例

学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績優秀な者</li> <li>・大学1年の成績が上位1/3の者</li> <li>・指導教官等の推薦を受けられる者</li> <li>・社内選考試験に合格した者</li> </ul>
家計の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学資の支弁が困難と認められる者</li> <li>・保護者の年収が900万円程度の者</li> <li>・世帯主が何らかの状況で仕事が出来ない者</li> <li>・世帯主の年収が1000万円以下の者</li> </ul>
国籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国籍を有する者</li> <li>・私費留学生</li> <li>・日本、タイ、インドネシア、中国の国籍を有する者</li> <li>・アジア国籍を有する者</li> <li>・アジアに留学する日本人</li> </ul>
専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系は主に工学、化学、機械、電気、文系は主に経済、法学、商学を専攻する者</li> <li>・理工系学科を専攻する者</li> <li>・人文科学、社会科学分野を専攻する者</li> <li>・特定県内の大学に在籍する者</li> <li>・医学、歯学、文学を除く学科を専攻する者</li> <li>・国際関係、MBAを専攻する者</li> <li>・特定大学に在籍する者</li> </ul>
年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部1～4年生</li> <li>・大学院進学が内定している学部4年生および大学院生</li> <li>・大学院生</li> <li>・学部3・4年生および大学院生</li> <li>・博士後期課程1・2年生</li> </ul>
他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の企業および財団（日本学生支援機構を除く）等から奨学金を受けていない者</li> <li>・社会のために専攻する学問を活かす意欲を持つ者</li> <li>・アジアの発展、日本との友好親善に貢献する強い意思を有する者</li> <li>・当社で採用を予定している者</li> <li>・面接、適正検査</li> </ul>

## II 奨学金の交付状況について

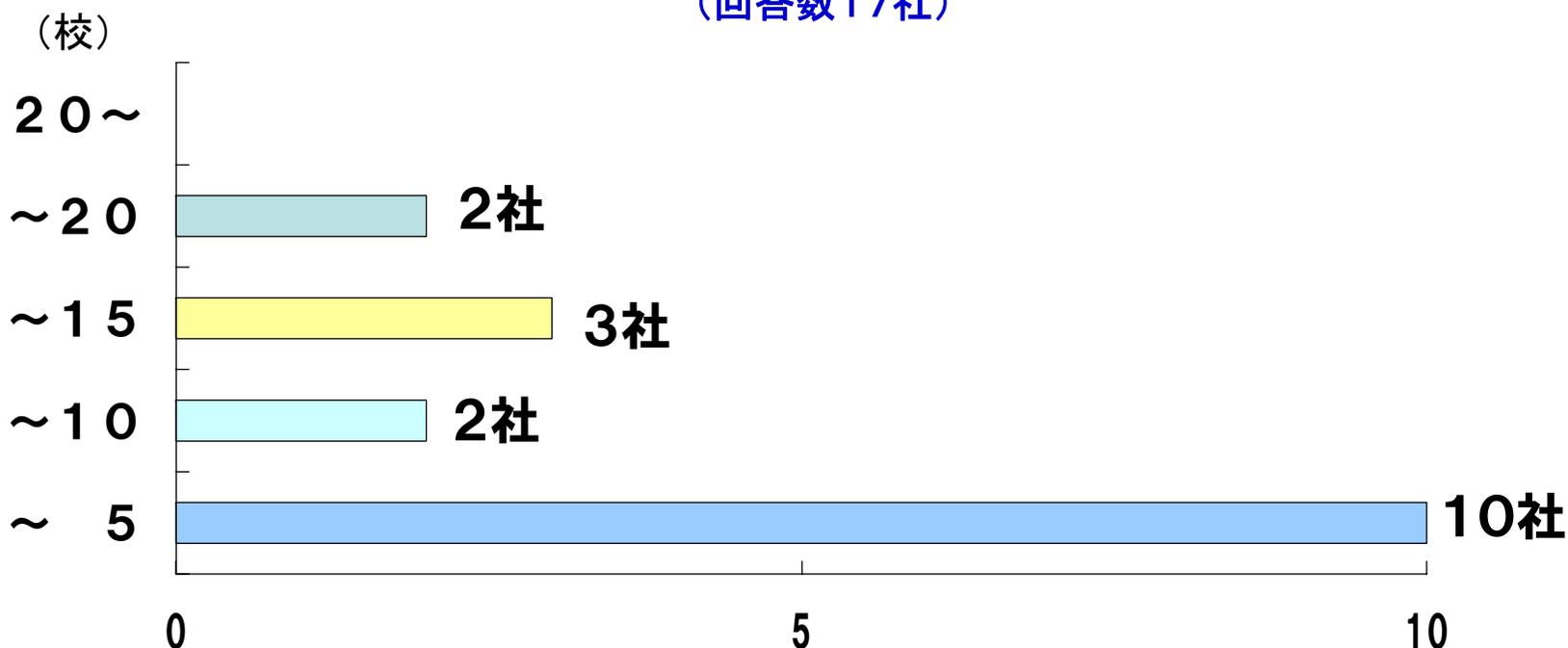
### 3. 奨学金(給付型)の交付状況

②交付している大学(院)数【直近3年間の平均概算値】

■ 交付している大学(院)数の一社あたり平均は約7校

#### 【奨学金を交付している大学(院)数】

(回答数17社)



## II 奨学金の交付状況について

### 3. 奨学金(給付型)の交付状況

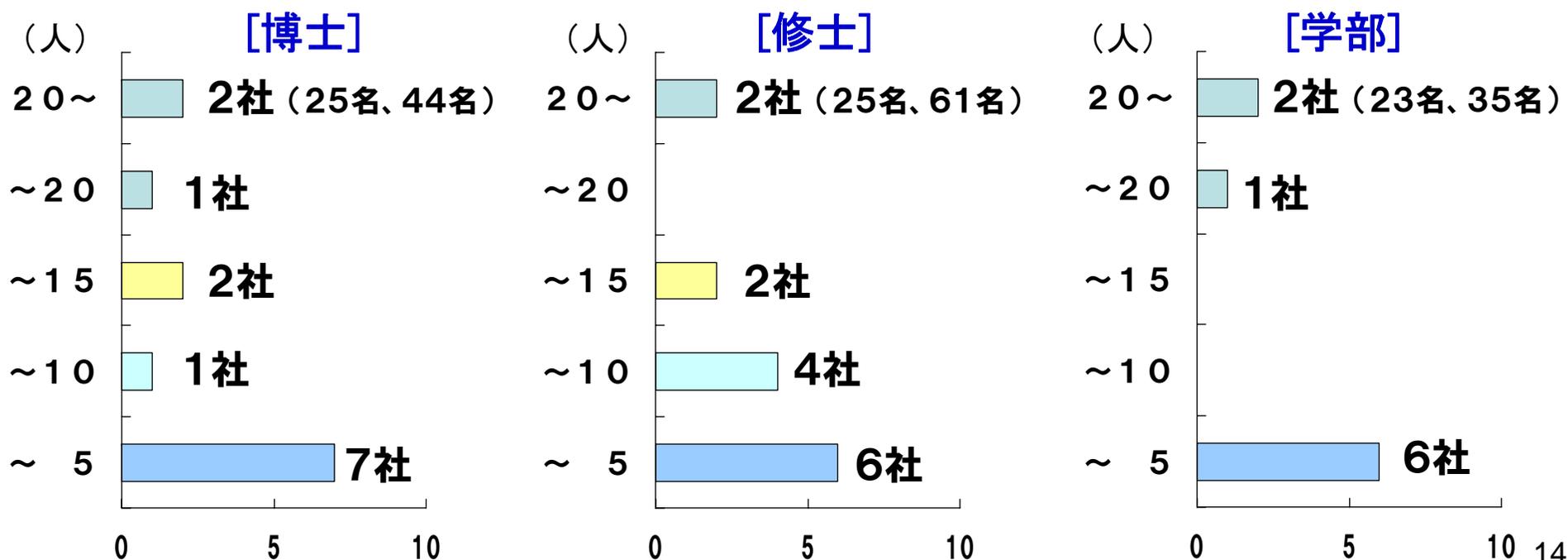
#### ③交付人数【直近3年間の平均概算値】

#### ■ 交付人数は各社でバラつきあり

※一社あたり平均は、博士 約11名、修士 12名、学部 10名

#### 【奨学金の交付人数】

(回答数 博士 13社、修士 14社、学部 9社)



## II 奨学金の交付状況について

### 3. 奨学金(給付型)の交付状況

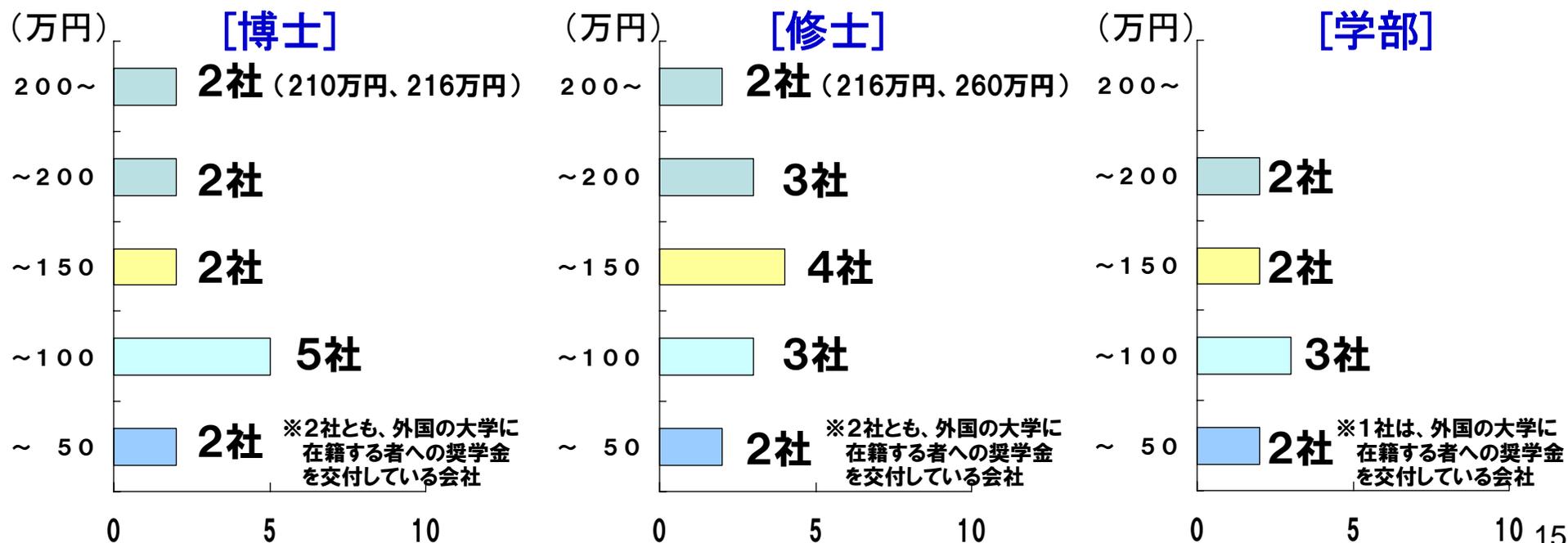
#### ④年間交付金額【直近3年間の平均概算値】

■ 一人あたり年間交付金額の一社あたり平均は、  
**博士 約132万円、修士 約143万円、学部 約114万円**

※外国の大学に在籍する者への奨学金(年間 約10~20万円)を交付している会社を除いた平均

#### 【奨学金の交付人数】

(回答数 博士 13社、修士 14社、学部 9社)



# III 今後の予定など

---

## ■ 今後の予定

### 【奨学金制度がない企業】

- 奨学金制度の導入を検討中/検討予定(7社)
- 奨学金制度導入の予定はない(12社)
- 大学への寄付等を通じて間接的に学生に対する支援ができる体制を検討予定

### 【奨学金制度がある企業】

- 交付人数の拡大を予定
- 「国籍」に関する交付条件として対象国を拡大する予定
- 制度を持ちながら有名無実化していたので積極的にPRしていく予定
- ポストドクターに対する奨学金制度の導入を検討予定

# III 今後の予定など

## ■政府等への要望

- 博士課程在学学生への奨学金の充実を強く国に要望したい。特に返済不要な奨学金を充実して欲しい。
- 在学中の生活費の負担を軽くするため、給付型奨学金制度やRA・TAに対する給料を充実させて欲しい。
- 平成20年に公益法人制度改革関連3法が施行される予定であるが、奨学金制度を実施する公益法人に対する税制の優遇措置は継続して欲しい。
- 私費留学生は国費留学と違いビザ申請を要するが、在留資格証明書入手に原則4週間もかかる。大学の「入学許可」が下りている限り数日で発行して欲しい。
- 国家として留学生受け入れを強化する方針であるのであれば、留学生の最も大きな関心事である大学の寮の拡充をお願いしたい。少なくとも国立大学には留学生寮の確保を義務づけるか、国家の支援等により、留学生の住居に関する負担を軽減して欲しい
- 大学によってはいまだに日本人の保証人を要求する場合がある。通常、海外からの留学生に「日本人の保証人は居ない」という実態を理解し、少なくとも国立大学に徹底して欲しい。
- 修士課程入学試験に関し、いくつかの大学院は年1回の日本語による試験しか準備せず、かつ同一試験で日本人と競争させている。各大学院に「留学生対象の英語による入学試験」を可能にするよう強く指導して欲しい